

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3147401号
(U3147401)

(45) 発行日 平成20年12月25日 (2008.12.25)

(24) 登録日 平成20年12月3日 (2008.12.3)

(51) Int.Cl.

F 1

B 6 5 D 5/32 (2006.01)

B 6 5 D 5/32

F

B 6 5 D 21/02 (2006.01)

B 6 5 D 21/02

D

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 実願2008-7236 (U2008-7236)
 (22) 出願日 平成20年10月15日 (2008.10.15)
 (31) 優先権主張番号 20-2007-0016813
 (32) 優先日 平成19年10月17日 (2007.10.17)
 (33) 優先権主張国 韓国 (KR)

(73) 実用新案権者 507015181
 ロッテ コンフエクショナルリー カンパニ
 ー リミテッド
 大韓民国ソウル特別市永登浦區楊坪洞4街
 23
 (73) 実用新案権者 307013857
 株式会社ロッテ
 東京都新宿区西新宿3丁目20番1号
 (74) 代理人 100102886
 弁理士 中谷 光夫
 (72) 考案者 徐知▲蓮▼
 〒150-046 大韓民国ソウル特別市
 永登浦區堂山洞6加 堂山オフィスビル2
 37-34

最終頁に続く

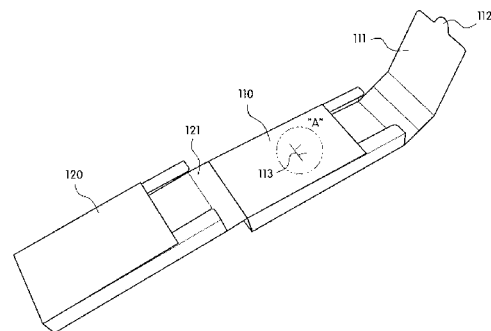
(54) 【考案の名称】 ガムケース

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】第1ケース110と第2ケース120が連結されるケースにおいて、前記ケースの覆い部111を開封した後、前記覆い部111の差込突起112を前記第2ケース120の背面に位置する第2結合口123に差し込むことで、開封されたケースを再封することができるガムケースを提供する。

【解決手段】内部空間にガムを入れて保管するガムケースにおいて、上面前端部と前面が開口され、長方形の形状で構成される第1ケース110と第2ケース120；前記第1ケース110の背面上端に構成され、その下端に差込突起112が形成され、二段に折りたたみが可能な覆い部111；前記第1ケース110の上面に前記差込突起112と対応するように形成される第1結合口113；前記第2ケース120の背面上端に構成され、前記第1ケース110の下面に付着されて連結される連結部121；前記第2ケース120の背面に前記差込突起112と対応するように形成される第2結合口；を含めて構成する。

【選択図】 図3



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

内部空間にガムを入れて保管するガムケースにおいて、
上面前端部と前面が開口され、長方形の形状で構成される第 1 ケースと第 2 ケース；
前記第 1 ケースの背面上端に構成され、その下端に差込突起が形成され、二段に折りたたみが可能な覆い部；
前記第 1 ケースの上面に前記差込突起と対応するように形成される第 1 結合口；
前記第 2 ケースの背面上端に構成され、前記第 1 ケースの下面に付着されて連結される連結部；
前記第 2 ケースの背面に前記差込突起と対応するように形成される第 2 結合口；
が含まれて構成されることを特徴とするガムケース。

10

【請求項 2】

前記連結部は前記第 2 ケースの背面上端から第 2 ケースの側面の縦の長さ分だけ離れた部分に切り取り線が形成されることを特徴とする、請求項 1 記載のガムケース。

【請求項 3】

前記第 1 結合口と第 2 結合口の前端側が複数切り込まれることを特徴とする、請求項 1 記載のガムケース。

【請求項 4】

前記覆い部は前記第 1 ケースの前面上端から下面方向に折りたたみが可能であり、前記差込突起が前記第 1 結合口に差し込まれることを特徴とする、請求項 1 記載のガムケース。

20

【請求項 5】

前記覆い部は前記第 2 ケースの後面下端から前面方向に折りたたみが可能であり、前記差込突起が前記第 2 結合口に差し込まれることを特徴とする、請求項 1 記載のガムケース。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は内部にガムを入れて保管するガムケースに関し、更に詳しくは、2 個のケースを連結し、ふたの役割をする覆い部の差込突起をケースの結合口に挿入することで、開封されたケースを再びきれいに封をし、第 1 ケースに連結された第 2 ケースに入れられた製品を食べ終えた後、これを除去し、前記第 1 ケースのみ封をして使用することが可能となるように製造されたガムケースに関する。

30

【背景技術】

【0002】

一般的に、ガムは多くの人が噛む嗜好品として、歯の衛生と歯の健康保護、口臭予防などの効能があり、脳の活動にも良く、ダイエット及び居眠り予防にも役立つことが知られている。

【0003】

従来のガムの形態は主に、紙、銀紙及び外装紙に包まれた長方形の板ガムが大部分であったが、最近販売されている碁石形状の機能性ガムの場合は、一つのケースに多量のガムを包装することが主流である。

40

【0004】

前記板ガムの場合は、携帯が容易となるように包装単位を 5 ～ 12 個程度の個包装で販売しているが、碁石形状のガム（例えば、キシリトール）の場合は、紙ケースに包まれた個包装の他に、大型容器に入れられたものと、詰め替え製品、簡易包装製品など大容量包装をして販売しており、経済性を考慮する消費者から人気を得ている。

【0005】

図 7 と図 8 は従来のガムケースを図示した斜視図である。

【0006】

一方、従来の個包装で販売されている板ガムは 2 種類の形態があり、1 つは、図 7 に図

50

示されるように、多数個の板ガムを各々包装して一列に重ねた後、フィルムとアルミ、紙から成る外装紙で全体を包んで外包装 10 を形成し、この外包装 10 を開封するために、カットテープ 11 が前記外包装 10 の内層側の上端部に接着されている。

【0007】

もう 1 つは、図 8 に図示されるように、多数個の板ガムを各々包装し、2 列に重ねて平たい四角の紙ケース 20 に挿入した後、閉じるようになっている。

【0008】

そして、前記紙ケース 20 の上端には、ガムを収容及び抜き出すための引出し口 21 が形成されている。

【0009】

前記引出し口 21 は、紙ケース 20 の裏面に折り込み線が形成され、ケースの側面及び前面に形成された切り取り線 22 が両側面の連結部 23 により封じられて接合され、引出し口 21 を上に押し上げると、前記引出し口 21 が後ろに反らせながら紙ケース 20 の上端部が開封される。

【0010】

しかしながら、従来の板ガムの場合、外包装 10 を開封するためにカットテープ 11 を剥くと、外包装 10 の上端部が完全に取れて、分離された外包装 10 部分を捨てなければならず、カットテープ 11 を全て剥がさずに、外包装 10 部分を残しておく、携帯及び保管に不便である。

【0011】

更に、キシリトールガムを除外した一般の板ガムの場合、多数個のガムが四角の紙ケース 20 に収容されている製品はなく、一度カットテープ 11 を剥がして開封してしまうと、切り取った外包装 10 部分を再び残った外包装 10 に付着することができないという短所がある。

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0012】

本考案の目的は、第 1 ケース 110 と第 2 ケース 120 が連結されるケース 100 において、前記ケースの覆い部 111 を開封した後、前記覆い部 111 の差込突起 112 を前記第 2 ケース 120 の背面に位置する第 2 結合口 123 に差し込むことで、開封されたケースを再封することができるガムケースを提供することにある。

【0013】

更に、本考案の目的は、前記第 2 ケース 120 を除去し、前記第 1 ケース 110 の上面に位置する第 1 結合口 113 に前記差込突起 112 を差し込むことで、第 1 ケース 110 のみ封をして使用することができるように構成されたガムケースを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0014】

前記目的を達成するために本考案は、内部空間にガムを入れて保管するガムケースにおいて、上面前端部と前面が開口され、長方形の形状で構成される第 1 ケース 110 と第 2 ケース 120 ；前記第 1 ケース 110 の背面上端に構成され、その下端に差込突起 112 が形成され、二段に折りたたみが可能な覆い部 111 ；前記第 1 ケース 110 の上面に前記差込突起 112 と対応するように形成される第 1 結合口 113 ；前記第 2 ケース 120 の背面上端に構成され、前記第 1 ケース 110 の下面に付着されて連結される連結部 121 ；前記第 2 ケース 120 の背面に前記差込突起 112 と対応するように形成される第 2 結合口 123 ；が含まれて構成されることを特徴とするガムケースを提供する。

【0015】

そして、前記連結部 121 は前記第 2 ケース 120 の背面上端から第 2 ケース 120 の側面の縦の長さ分だけ離れた部分に切り取り線 122 が形成されることを特徴とする。

【0016】

好ましくは、前記第 1 結合口 113 と第 2 結合口 123 の前端側が複数切り込まれるこ

10

20

30

40

50

とを特徴とする。

【0017】

更に、前記覆い部111は前記第1ケース110の前面上端から下面方向に折りたたみが可能であり、前記差込突起112が前記第1結合口113に差し込まれることを特徴とする。

【0018】

更に好ましくは、前記覆い部111は前記第2ケース120の後面下端から前面方向に折りたたみが可能であり、前記差込突起112が前記第2結合口123に差し込まれることを特徴とする。

【考案の効果】

10

【0019】

本考案に係るガムケースは、開封した後にも第2ケース120の第2結合口123に覆い部111の差込突起112を差し込むことで、再びきれいに封をすることができる効果がある。

【0020】

そして、本考案のガムケースにおいて、第2ケース120を除去した後、第1ケース110の第1結合口113に差込突起112を差し込むことで、前記第1ケース110のみ封をして使用することができる。

【0021】

更に、第1ケース110と第2ケース120に互いに異なる製品を収納することができるため、消費者の多様な欲求を充足することができる効果もある。

20

【考案を実施するための最良の形態】

【0022】

この好ましい実施例を通して本考案の目的、特徴及び利点を更に理解することができるようになり、以下、添付した図面を参照して本考案による好ましい一実施例を詳しく説明するが、本考案がこれに限定されるわけではない。

【0023】

図1は本考案によるガムケースの一実施例を図示した結合斜視図であり、図2は図1において覆い部111がオープンされた状態を図示した斜視図であり、図3は本考案によるガムケースの一実施例の開封状態を図示した斜視図である。

30

【0024】

更に、図4は本考案の第1ケース110と第2ケース120が連結される前の状態を図示した斜視図であり、図5は本考案のケースから第2ケース120を除去する状態を図示した斜視図であり、図6は本考案の第1ケース110のみを使用する場合を図示した結合斜視図である。

【0025】

本考案によって具現されるガムケースの一実施例には、ケース100の覆い部111を開くと、第1ケース110と第2ケース120の2個のケースで構成されており、各々のケースに互いに異なる製品、もしくは同一製品を保管することができ、第2ケース120は食べ終えた後に除去することができ、第1ケース110のみを使用することができるように構成されている。

40

【0026】

まず、図1及び図3に図示されるように、前記第1ケース110と第2ケース120の両方が同一サイズの長方形の形状で準備され、各背面の上端側に位置する前面が開口されており、製品を出し入れすることができるように構成される。

【0027】

そして、前記第1ケース110と第2ケース120の各上面の前端部は、第1ケース110と第2ケース120の各両側面が折り曲げられた後、一定長さに延長形成され、製品の出し入れが更に容易となるように、一部が開口された形態で構成される。

【0028】

50

図 4 に図示されるように、前記第 2 ケース 1 2 0 の背面上端には、前記第 1 ケース 1 1 0 の後面に通常の接着剤を利用して付着して連結されるように、連結部 1 2 1 が延長形成され、この連結部 1 2 1 は前記第 2 ケース 1 2 0 の背面上端から第 2 ケース 1 2 0 の側面の縦の長さ分だけ離れた部分、即ち、前記連結部 1 2 1 の中央部分に切り取り線 1 2 2 が形成される。

【0029】

そして、前記第 1 ケース 1 1 0 は背面上端が所定の長さに延長形成され、覆い部 1 1 1 を形成する。

【0030】

前記覆い部 1 1 1 は、二段に折りたたみが可能なように形成されるが、前記第 1 ケース 1 1 0 の前面を覆った後、上面方向に折りたたまれるように形成され、前記連結部 1 2 1 により連結された第 2 ケース 1 2 0 の後面を覆った後、前記第 2 ケース 1 2 0 の背面方向に折りたたまれるように形成される。

【0031】

更に、前記覆い部 1 1 1 の下端には、前記連結部 1 2 1 により連結された第 1 ケース 1 1 0 と第 2 ケース 1 2 0 を固定するために差込突起 1 1 2 が形成される。

【0032】

前記第 1 ケース 1 1 0 と第 2 ケース 1 2 0 が連結された後、前記差込突起 1 1 2 が位置する前記第 2 ケース 1 2 0 の背面に第 2 結合口 1 2 3 が対応するように配置され、前記差込突起 1 1 2 が第 2 結合口 1 2 3 に挿入が可能となるように構成される。

【0033】

そして、前記第 2 ケース 1 2 0 を除去した後、前記第 1 ケース 1 1 0 のみ使用することが可能となるように、前記差込突起 1 1 2 と対応する位置、即ち、前記第 1 ケース 1 1 0 の上面に第 1 結合口 1 1 3 が形成される。

【0034】

本考案の一実施例によるガムケースは、紙及びプラスチック材質を利用して製造される。

【0035】

従って、前記差込突起 1 1 2 が前記第 1 結合口 1 1 3 及び第 2 結合口 1 2 3 に差し込まれる時、前記第 1 結合口 1 1 3 及び第 2 結合口 1 2 3 の前端側を下側に押しながら挿入されるため、容易に差し込むことができる。

【0036】

そして、前記第 1 結合口 1 1 3 及び第 2 結合口 1 2 3 の前端側を複数切り込み、前記差込突起 1 1 2 が更に円滑に挿入されるように構成することが好ましい。

【0037】

以下、前記のように構成された本考案による一実施例の作動状態を説明すると下記の通りである。

【0038】

前記連結部 1 2 1 に接着剤を塗布して前記第 1 ケース 1 1 0 の後面に付着し、前記第 2 ケース 1 2 0 と連結すると、図 3 に図示されるように、第 1 ケース 1 1 0 と第 2 ケース 1 2 0 がぴったり配置された状態で連結される。

【0039】

その後、包装しようとする製品を前記第 1 ケース 1 1 0 と第 2 ケース 1 2 0 の内部に各々入れる。

【0040】

そして、前記第 2 ケース 1 2 0 の前面が前記連結部 1 2 1 と接するように、第 2 ケース 1 2 0 を前記第 1 ケース 1 1 0 の上面側に持ち上げて、前記第 2 ケース 1 2 0 の上面と第 1 ケース 1 1 0 の上面が接するようにした後、前記覆い部 1 1 1 を第 2 ケース 1 2 0 の後面下端で折り、前記差込突起 1 1 2 を第 2 結合口 1 2 3 に挿入して第 1 ケース 1 1 0 と第 2 ケース 1 2 0 を固定結合する。

10

20

30

40

50

【0041】

従って、図2に図示されるように、前記第2ケース120の前面は、前記連結部121によりカバーされ、第2ケース120と前記第1ケース110は各々の前面と後面が互い違いに交差した状態で配置されて結合される。

【0042】

一方、前記第2ケース120に収納されている製品を全て食べ終えて、内部が空になると、図5に図示されるように、前記連結部121の切り取り線122に沿って第2ケース120を取り外し、前記第1ケース110から除去する。

【0043】

その後、前記覆い部111を前記第1ケース110の前面上端で折りたたんだ後、図6に図示されるように、前記差込突起112を第1結合口113に挿入して前記第1ケース110を覆う。

【0044】

従って、前記第1ケース110の内部に入れられた製品が出てこないように保管することができ、前記第1ケース110のみを便利に使用することが可能となる。

【0045】

前記にて本考案の特定な実施例を説明及び図示したが、本考案が当業者により多様に改良され、実施される可能性があることは自明なことである。

【0046】

このように改良された実施例は本考案の技術的思想や展望から個別的に理解されてはならず、このように改良された実施例は本考案に添付された請求範囲内に属さなければならない。

【図面の簡単な説明】

【0047】

【図1】本考案によるガムケースの一実施例を図示した結合斜視図である。

【図2】図1において覆い部がオープンされた状態を図示した斜視図である。

【図3】本考案によるガムケースの一実施例の開封状態を図示した斜視図である。

【図4】本考案の第1ケースと第2ケースが連結される前の状態を図示した斜視図である。

【図5】本考案のケースから第2ケースを除去する状態を図示した斜視図である。

【図6】本考案の第1ケースのみを使用する場合を図示した結合斜視図である。

【図7】従来のガムケースを図示した斜視図である。

【図8】従来のガムケースを図示した斜視図である。

【符号の説明】

【0048】

- 10 外包装
- 11 カットテープ
- 20 紙ケース
- 21 引出し口
- 22 切り取り線
- 23 連結部
- 100 ケース
- 110 第1ケース
- 111 覆い部
- 112 差込突起
- 113 第1結合口
- 120 第2ケース
- 121 連結部
- 122 切り取り線
- 123 第2結合口

10

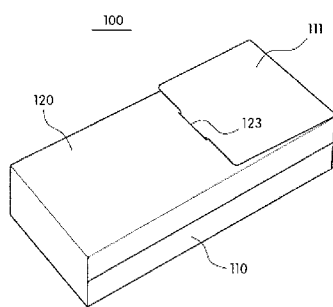
20

30

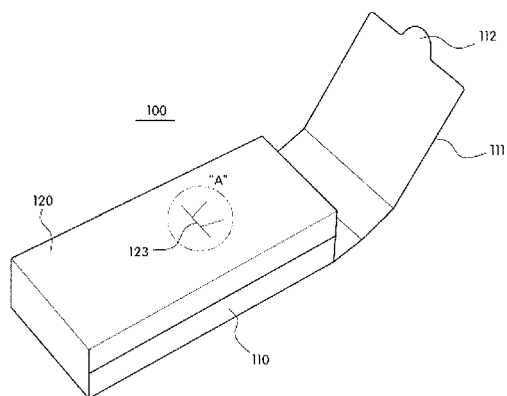
40

50

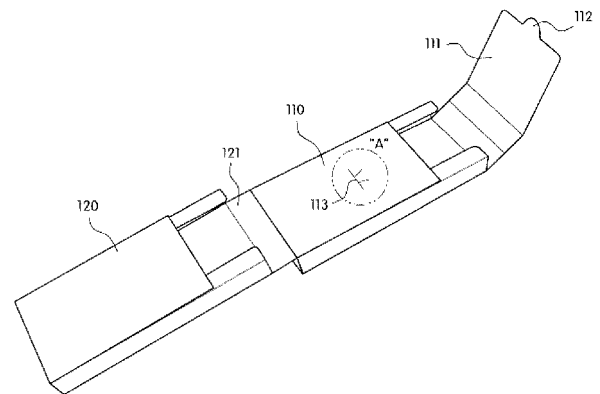
【図 1】



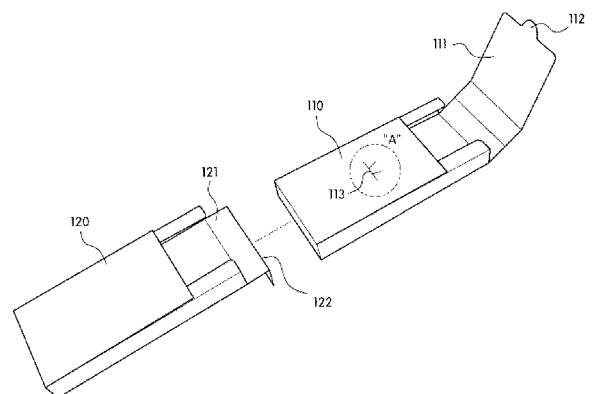
【図 2】



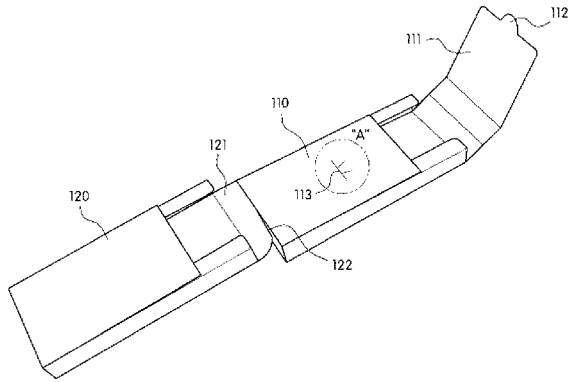
【図 3】



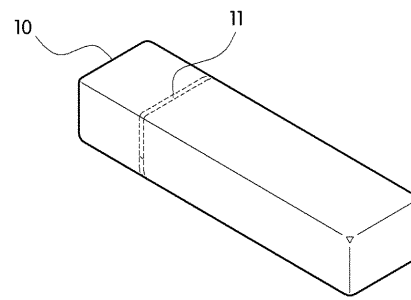
【図 4】



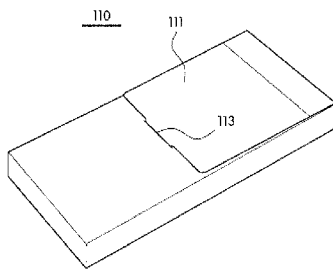
【図 5】



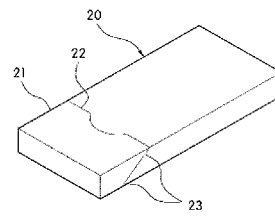
【図 7】



【図 6】



【図 8】



フロントページの続き

(72)考案者 林政勳

〒150-806 大韓民国ソウル特別市永登浦區堂山洞4加92現代2次アパート505

(72)考案者 朴炯煥

〒412-220 大韓民国京畿道高陽市▲徳▼陽區幸信洞ムウォンマエウル シナンアパート8
01-502

(72)考案者 金溶澤

〒157-303 大韓民国ソウル特別市江西區登村洞715アイーパーク109-301